

第90期 中間期

証券コード 4471

株主のみなさまへ

平成25年4月1日～平成25年9月30日



〈CONTENTS〉

株主のみなさまへ	1
財務ハイライト	2
TOP INTERVIEW	3-4
セグメント別 営業の概況	5-8
財務諸表	9-10
TOPICS	11
製品紹介	12
会社概要／株式の概況	13-14

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配をたまわり、厚くお礼申し上げます。当社第90期中間期(第2四半期累計期間:平成25年4月1日~平成25年9月30日)の連結業績の概要をここにご報告申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、輸出環境が改善するとともに設備投資も持ち直しの動きが見られるなど景気は緩やかに回復しつつあります。一方、欧州経済の低迷や中国の経済成長鈍化など、わが国を取り巻く環境は先行き不透明な状況にあります。

化学業界におきましては、為替は円安基調で推移したものの、原燃料価格は乱高下しながらも高水準にあり厳しい状況が続いております。

このような環境下における当中間期の売上高は、高吸水性樹脂の販売が好調であったことなどにより、802億3千6百万円(前年同期比13.5%増)となりました。利益面では、増収に加え円安効果などにより、営業利益は41億5百万円(前年同期比37.5%増)、経常利益は50億5千4百万円(前年同期比46.2%増)、純利益は29億3千2百万円(前年同期比53.5%増)と、いずれも前年同期比で大幅増益となりました。

中間配当金につきましては、昨年の中間配当金、および本年6月に実施いたしました期末配当金と同じく、1株当たり7円50銭とさせていただきます。

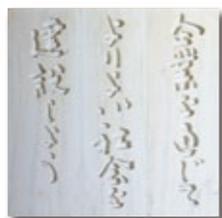
株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまわれますようお願い申し上げます。

平成25年11月



代表取締役社長

佐藤 孝夫



[社是]

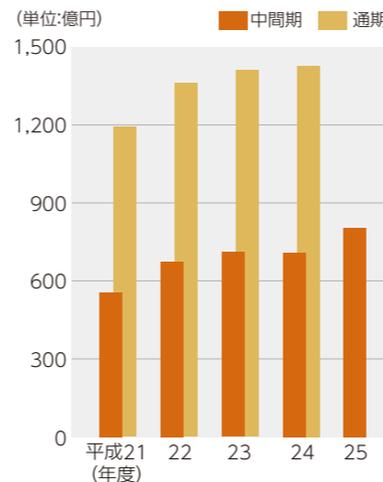
企業を通じて

よりよい社会を

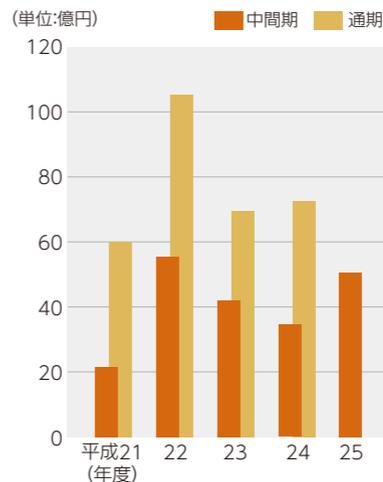
建設しよう

財務ハイライト(連結)

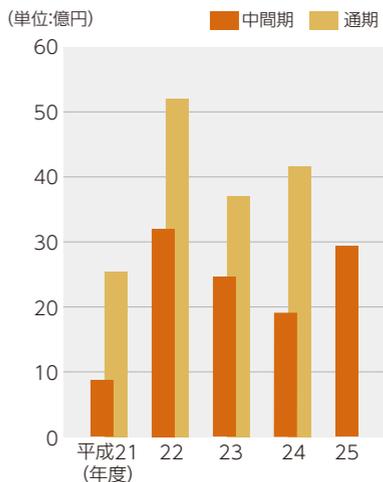
売上高の推移



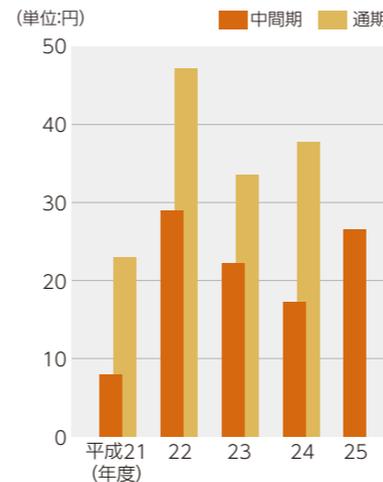
経常利益の推移



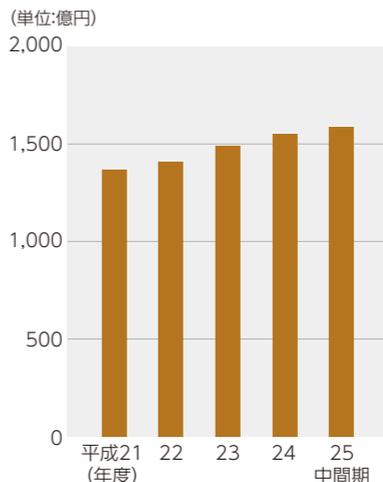
当期(中間期)純利益の推移



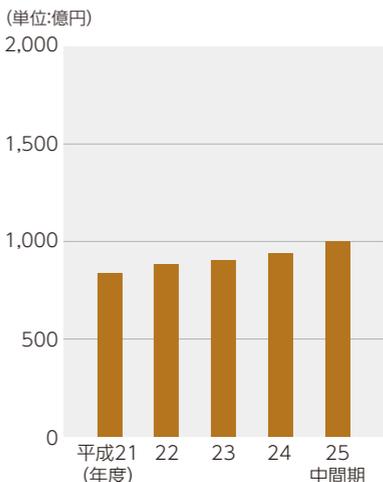
1株当たり当期(中間期)純利益の推移



総資産の推移



純資産の推移



TOP INTERVIEW

◎安藤社長インタビュー

“名実ともに大企業へ” 着実に戦略を進めています。



Q 当中間期の増収・増益の要因について教えてください。

A 高吸水性樹脂、自動車用潤滑油添加剤の売り上げが順調であり、増収・増益となりました。

高吸水性樹脂は、中国をはじめとした新興国での乳幼児用紙おむつと、高齢化の進む先進国での大人用紙お

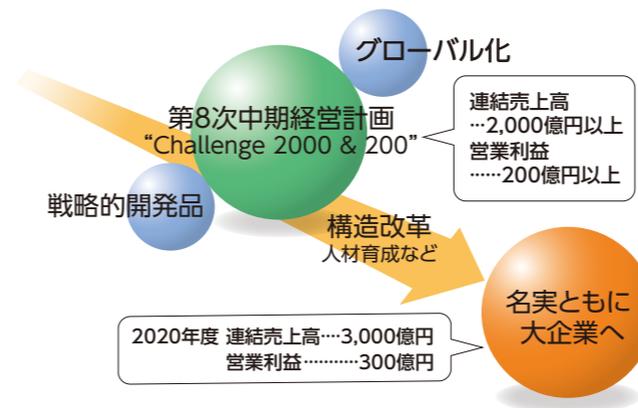
むつの需要が堅調に伸びています。加えて、紙おむつの薄型化に貢献する高性能高吸水性樹脂の拡販もあり、売り上げを大きく伸ばしています。また、自動車用潤滑油添加剤も燃費向上を武器に国内外で大きく売り上げを伸ばしました。(P.12をご参照ください)

利益面も、増収に加え、円安効果などもあり、当中間期は営業利益・経常利益・純利益いずれも増益となりました。

Q 今後の長期的な目標は何ですか。

A 名実ともに大企業に成長するために、2020年度までに連結売上高3,000億円、営業利益300億円を目標としています。

現在は、この目標を達成するための重要な通過点として、2011年度から2014年度までの期間、第8次中期経営計画を実行中で、最終年度となる2014年度に連結売上高2,000億円以上、営業利益200億円以上の達成を目指しています。外部環境の悪化により当期間中の数値目標達成は難しくなっていますが、達成のために掲げた戦略は着実に進展しております。



Q 目標達成に向け、どのような取り組みを行っていますか。

A 目標達成のための戦略として「グローバル化の推進」、「戦略的開発品※の開発および拡販」、「人材育成」を掲げています。

グローバル化については、アメリカ・中国・タイにおける現地生産を加速させた結果、海外売上高比率、海外生産比率ともに順調に伸びています。

戦略的開発品の開発では、高吸水性樹脂や潤滑油添加剤、ポリウレタンフォーム用原料などの新技術への移行が着々と進んでいます。また、戦略的開発品以外にも、近年の環境ニーズにあわせて、節水に貢献するコンパクト型液体洗剤用基剤(P.11をご参照ください)など省エネルギー・省資源に貢献する製品や、原料に有害物質である溶剤を使わない接着剤など、環境に配慮した製品を多数提供しています。

人材育成では、大学での語学研修やMOT(技術経営修士)の取得、海外子会社での実地研修、海外留学した学生の採用などグローバル人材の育成を進めています。

これらの戦略に関しては、今後も引き続き注力していきます。

※戦略的開発品:収益力向上と事業領域拡大のため重点的に開発していく製品。

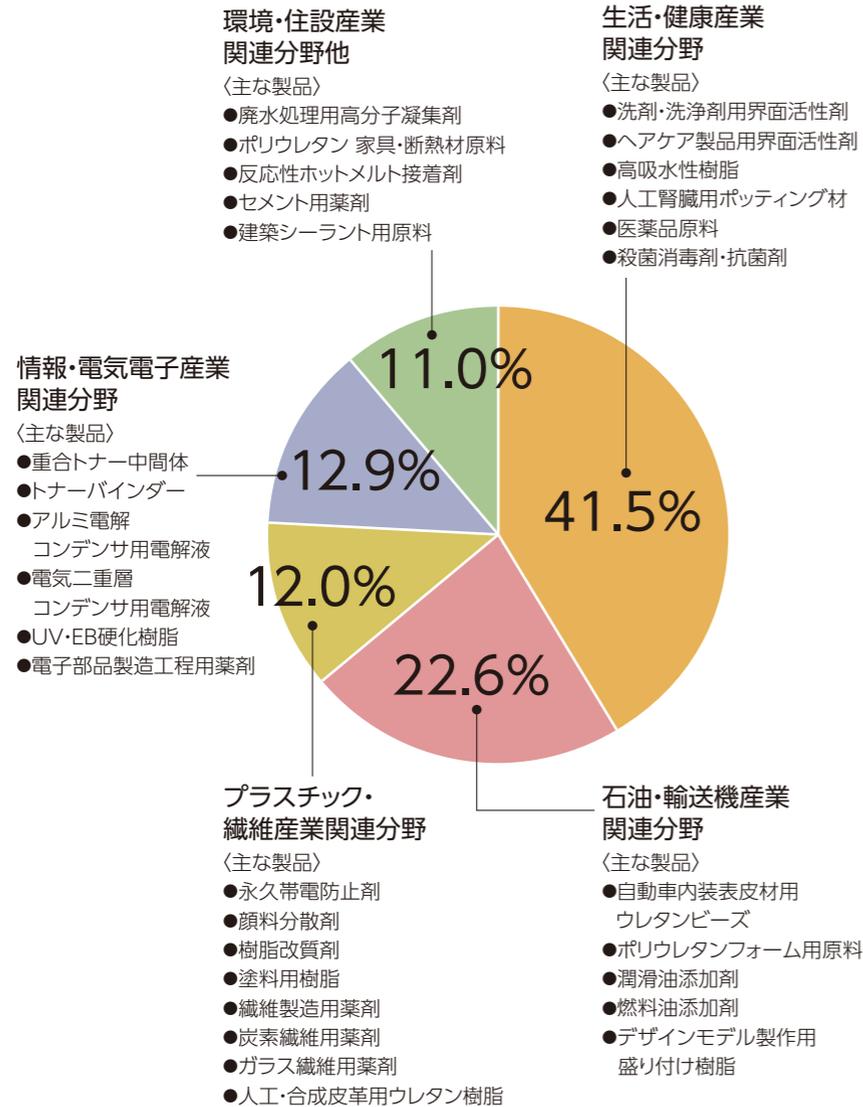
Q 最後に、株主のみなさまへひとことお願いします。

A 「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」に向けて努力していきます。

世界経済の先行きも不透明であり、厳しい状況が続いていますが、「グローバルに、ユニークな優良企業グループ」の実現に向かって、企業体質の抜本的な改革と基盤の強化に努めてまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

セグメント別 営業の概況

各産業関連分野の売上高比率と主な製品



生活・健康産 業関連分野

生活産業関連分野は、液体洗剤用界面活性剤が堅調な需要を背景に新製品の上市もあり、大幅に売り上げを伸ばしましたが、ヘアケア製品用界面活性剤やポリエチレングリコールなどの売り上げが横ばいにとどまるとともに、諸工業用界面活性剤の需要が減少したこともあり、売り上げは横ばいとなりました。

健康産業関連分野は、紙おむつ用高吸水性樹脂の需要増に対する中国での能力増強効果や、紙おむつの薄型化等に貢献する高性能高吸水性樹脂の拡販が進み、売り上げが大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は333億2千万円(前年同期比25.2%増)、営業利益は19億7千4百万円(前

年同期比67.8%増)となりました。

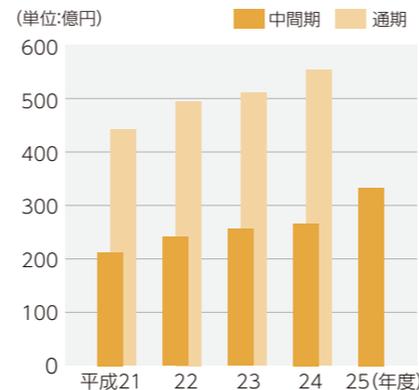


紙おむつに

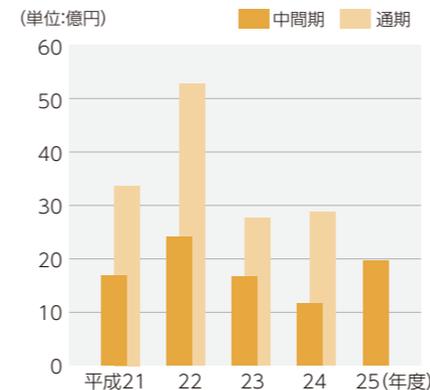


液体洗剤に

売上高の推移



営業利益の推移



石油・輸送機産業関連分野

石油・輸送機産業関連分野は、自動車シートなどに使われるポリウレタンフォーム用原料の国内販売が横ばいでしたが、海外での拡販により、好調な売り上げとなりました。また、潤滑油添加剤も省燃費対応エンジンオイルの需要拡大が続き、売り上げを伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は181億4百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は7億4千1百万円(前年同期比28.5%増)となりました。

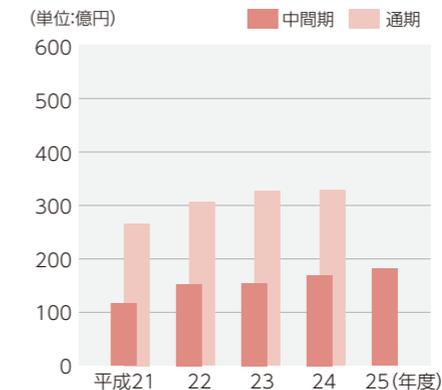


自動車シートに

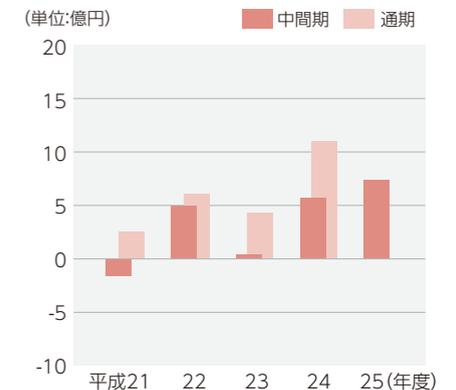


省燃費タイプのエンジンオイルに

売上高の推移



営業利益の推移



セグメント別 営業の概況

プラスチック・繊維産業関連分野

プラスチック産業関連分野は、塗料用樹脂や樹脂改質剤などの塗料・コーティング用薬剤が大幅に売り上げを伸ばしました。また、電子部品搬送トレーなどに使用される永久帯電防止剤も低抵抗型高性能製品の拡販が進み、売り上げは好調に推移しました。

繊維産業関連分野は、ガラス繊維用薬剤の需要低迷が続きましたが、炭素繊維用薬剤の需要が国内外ともに増加したこと、合成皮革・弾性繊維用ウレタン樹脂や自動車エアバッグ糸・タイヤコード糸などの製造時に用いられる繊維製造用薬剤が大幅な売り上げ増となったことなどにより、売り上げは大幅に増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は96億3千5百万円(前年同期比

10.1%増)、営業利益は11億3千1百万円(前年同期比11.3%増)となりました。

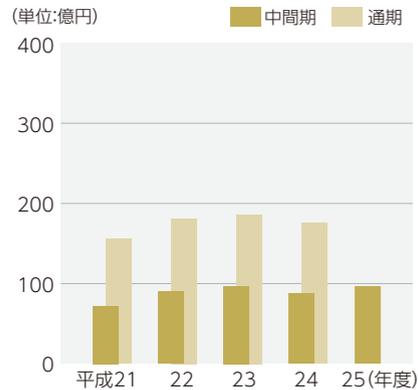


炭素繊維の製造に

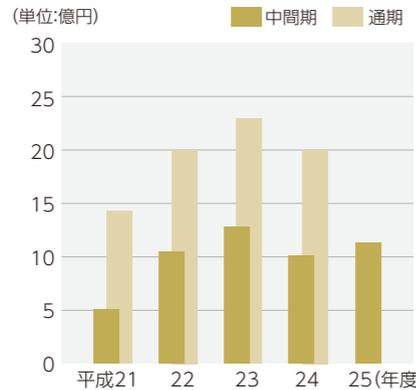


電子部品などの搬送材料に

売上高の推移



営業利益の推移

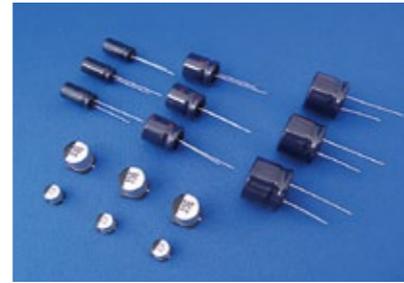


情報・電気電子産業関連分野

情報産業関連分野は、粉砕トナー用バインダーは需要が復調の兆しを見せ始めたものの、重合トナー中間体ポリエステルビーズは新規開発品への切り替えが遅れたため低調に推移し、売り上げは横ばいとなりました。

電気電子産業関連分野は、アルミ電解コンデンサ用電解液の需要が復調したことや、セラミックバインダー用薬剤などの電子部品製造工程用薬剤の販売が増加したことなどにより、売り上げを伸ばしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は103億7千7百万円(前年同期比2.7%増)、営業利益は3億3千1百万円(前年同期比20.2%増)となりました。

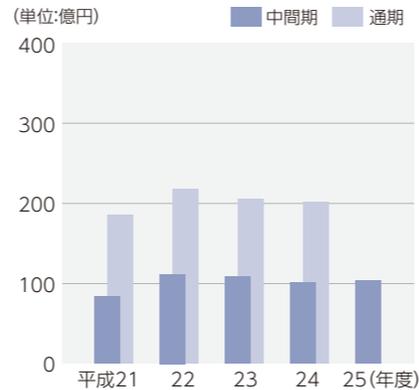


アルミ電解コンデンサに

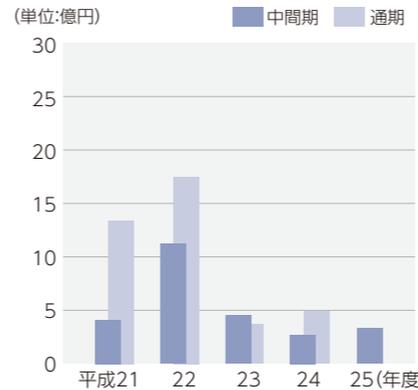


コピー機のトナーに

売上高の推移



営業利益の推移



環境・住設産業関連分野他

環境産業関連分野は、主力の高分子凝集剤が市況悪化により、売上高が大幅に減少しました。

住設産業関連分野は、建築シーラント用原料やセメント用薬剤の売り上げが横ばいで推移しましたが、家具・断熱材などに用いられるポリウレタンフォーム用原料が大幅な需要増となり、売り上げが増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は87億9千9百万円(前年同期比5.9%増)となりましたが商品構成の悪化もあり、営業損益は7千3百万円の損失(前年同期は5千9百万円の損失)となりました。

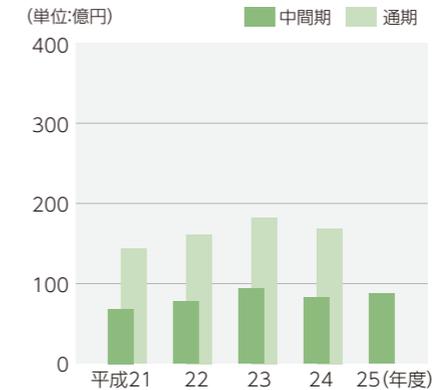


ソファに

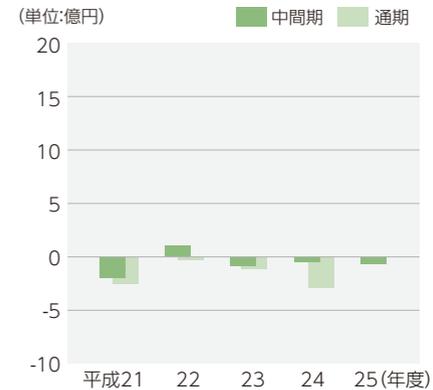


廃水の微粒子除去に

売上高の推移



営業利益の推移



財務諸表

第2四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前期末 (平成25年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	増減金額
資産の部			
流動資産	73,870	74,473	602
現金及び預金	10,164	11,480	1,315
受取手形及び売掛金	43,166	41,674	△1,492
たな卸資産	18,808	19,165	356
その他	1,730	2,153	423
固定資産	81,567	84,486	2,919
有形固定資産	56,208	56,204	△3
建物及び構築物	16,205	16,478	273
機械装置及び運搬具	25,683	27,738	2,055
建設仮勘定	4,302	1,935	△2,366
その他	10,017	10,051	34
無形固定資産	2,595	2,521	△73
投資その他の資産	22,764	25,760	2,996
投資有価証券	21,196	24,256	3,059
その他	1,567	1,504	△62
資産合計	155,438	158,960	3,522

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント

現金及び預金の増加(1,315百万円)

P.10連結キャッシュ・フロー計算書をご参照ください。

機械装置及び運搬具の増加(2,055百万円)ならびに建設仮勘定の減少(△2,366百万円)

当社鹿島工場におけるトナーバインダー製造設備が稼働(1,860百万円)したことなどによるものです。

投資有価証券の増加(3,059百万円)

株価上昇による時価評価額の増加(2,698百万円)などによるものです。

科 目	前期末 (平成25年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	増減金額
負債の部			
流動負債	50,491	47,467	△3,023
支払手形及び買掛金	27,567	26,000	△1,567
短期借入金	9,573	10,904	1,330
一年以内返済予定長期借入金	3,038	1,623	△1,414
その他	10,312	8,939	△1,372
固定負債	10,666	11,132	465
長期借入金	6,037	5,952	△84
退職給付引当金	2,392	2,046	△345
その他	2,237	3,134	896
負債合計	61,158	58,600	△2,558
純資産の部			
株主資本	86,691	88,793	2,101
資本金	13,051	13,051	—
資本剰余金	12,194	12,194	—
利益剰余金	67,148	69,253	2,105
自己株式	△5,701	△5,705	△3
その他の包括利益累計額	4,598	7,851	3,252
少数株主持分	2,989	3,714	725
純資産合計	94,279	100,360	6,080
負債及び純資産合計	155,438	158,960	3,522

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

受取手形及び売掛金の減少(△1,492百万円)ならびに支払手形及び買掛金の減少(△1,567百万円)

前期末が期末日休日による影響(受取手形及び売掛金△3,733百万円、支払手形及び買掛金△4,744百万円)などによるものです。

自己資本比率の上昇

利益剰余金の増加などにより、自己資本比率が2.1ポイント向上し、60.8%となりました。

第2四半期(累計)連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	増減金額
売上高	70,681	80,236	9,554
売上原価	58,451	66,677	8,226
売上総利益	12,230	13,558	1,328
販売費及び一般管理費	9,244	9,453	209
営業利益	2,986	4,105	1,119
営業外収益	952	1,284	332
営業外費用	482	336	△146
経常利益	3,456	5,054	1,597
特別利益	110	32	△78
特別損失	334	299	△34
税金等調整前第2四半期純利益	3,232	4,786	1,554
法人税、住民税及び事業税	1,112	1,404	291
少数株主損益調整前第2四半期純利益	2,119	3,382	1,262
少数株主利益	209	449	240
第2四半期純利益	1,910	2,932	1,022

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント

損益の状況

高吸水性樹脂の販売が好調であったことなどにより、前年同期比で大幅増収となりました。利益面では、増収に加え円安効果などにより、営業利益・経常利益・純利益とも大幅増益となりました。

第2四半期(累計)連結株主資本等変動計算書 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	13,051	12,194	67,148	△5,701	86,691	5,730	△1,131	4,598	2,989	94,279
当第2四半期中の変動額										
剰余金の配当			△827		△827					△827
第2四半期純利益			2,932		2,932					2,932
自己株式の取得				△3	△3					△3
株主資本以外の項目の当第2四半期中の変動額(純額)						1,751	1,500	3,252	725	3,978
当第2四半期中の変動額合計	—	—	2,105	△3	2,101	1,751	1,500	3,252	725	6,080
当第2四半期末残高	13,051	12,194	69,253	△5,705	88,793	7,481	369	7,851	3,714	100,360

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

第2四半期(累計)連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,268	7,795
(税金等調整前第2四半期純利益)	(3,232)	(4,786)
(減価償却費)	(4,319)	(4,580)
(その他)	(△283)	(△1,571)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,062	△4,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	334	△2,017
現金及び現金同等物に係る換算差額	△88	310
現金及び現金同等物の増加額	1,452	1,315
現金及び現金同等物の期首残高	9,360	10,164
現金及び現金同等物の第2四半期末残高	10,813	11,480

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てております。

ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、好調な売り上げを背景に税金等調整前第2四半期純利益が4,786百万円(前年同期比1,554百万円増)となったことなどにより、7,795百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備資金の支払い(△4,688百万円)などにより、△4,772百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済(△1,653百万円)や配当金の支払い(△827百万円)などにより、△2,017百万円となりました。

TOPICS

TOPICS
1

高吸水性樹脂の 新合弁会社がスタート



当社と豊田通商株式会社(以下豊田通商)は、本年9月30日、当社の連結子会社で高吸水性樹脂を製造・販売しているサンダイヤポリマー株式会社(以下サンダイヤ)に関し、新たな合併契約を締結しました。また、商号を「SDPグローバル株式会社」(以下SDPグローバル)に変更し、新合弁会社をスタートしました。

なお、本年3月29日の当社と三菱化学株式会社(以下三菱化学)との合意に基づき、三菱化学が保有していたサンダイヤの株式40%のうち10%を当社が取得していましたが、国内外の競争法に基づく必要な手続きを終えて、本年9月30日に残る30%の株式を豊田通商が取得しました。これにより、SDPグローバルは当社が70%、豊田通商が30%を出資する合弁会社となりました。

高吸水性樹脂は、紙おむつ用として堅調な需要の伸びを示しています。特に新興国市場では子供用紙おむつの普及に伴い年率10%を超える勢いで需要が伸びており、SDPグローバルの中国現地法人「三大雅精細化学品(南通)有限公司」(以下SDN)では生産能力を年産8万トン増強することを決定しています(2015年7月稼働予定)。これにより、SDPグローバルおよびSDNにおける生産能力は、合わせて年産36万トン(世界第4位)となります。SDPグローバルでは、以前よりサンダイヤが保有していた研究開発・生産体制に加えて、豊田通商が保有する販売・物流網を活用することで競争力を高め、積極投資を通じてグローバル展開を加速していきます。

TOPICS
2

機械油などのがんこな油汚れを落とす 衣料用液体洗剤基剤を開発



衣料用液体洗剤に
コンパクト型と呼ばれる一回当たりの使用量の少ない液体洗剤へのニーズが高まっています。このコンパクト型

当社は、機械油などのがんこな油汚れに対応した衣料用コンパクト型液体洗剤基剤『イオネットCPE-100』を開発しました。

衣料用洗剤の市場では、洗剤の溶け残りが少なく使い勝手の良い液体洗剤が広く普及してきました。特に、環境負荷低減の観点から、

液体洗剤では、高い洗浄力と良好なすすぎ性能を保ちながら、優れた流動性(容器からの流れやすさ)が必要とされています。しかし、この条件を満たす原料は褐色であるため、透明感や清潔感というイメージが求められる洗剤基剤には不向きという欠点がありました。

『イオネットCPE-100』は、当社独自の淡色化技術によってこの欠点を克服しました。優れた流動性に加え、少量でも高い洗浄力を発揮でき、水によく溶けるため、すすぎの回数も少なく節水に寄与することができます。

今後も、長年蓄積した界面活性剤に関する技術を駆使して、様々なニーズに対応した高性能な洗剤基剤の開発に注力していきます。

製品紹介

「もっと…」をかなえる三洋化成

「もっときれいに」「もっと安全に」「もっと地球にやさしく」...

社会が進歩し産業が発展してきたのは、「もっと」を願う人々の気持ちがあったから。

三洋化成は、この「もっと…」をかなえるパフォーマンス・ケミカルズをお届けしています。今回は自動車の分野で「もっと…」をかなえるパフォーマンス・ケミカルズとして「アクループ」シリーズを紹介します。

もっと低燃費に...

潤滑油添加剤「アクループ」シリーズ

潤滑油添加剤「アクループ」シリーズとは?

潤滑油添加剤「アクループ」シリーズは、自動車のエンジン油や変速機油、油圧作動液など様々な潤滑油に添加されています。1963年の開発以来改良を重ね、幅広いラインアップで社会のニーズに応えてきました。



「アクループ」シリーズは どんなはたらきを持っているのか?

潤滑油は、温度が高くなると粘度が低く、温度が低くなると粘度が高くなる性質を持っています。自動車の燃費は、潤滑油の粘度が低いほど向上しますが、温度が高まった場合には粘度が低くなりすぎ、摩耗による故障を起こす原因となってしまいます。『アクループ』シリーズは、潤滑油に添加すると、潤滑油の温度による粘度変化

を抑え、温度が高い場合も低い場合も潤滑油の粘度を適正な低いレベルの範囲に保つはたらきを持っています。

なぜ今「アクループ」シリーズのニーズが高まっているのか?

地球温暖化防止に向け自動車の燃費基準が引き上げられており、従来から当社品が添加されていた変速機油に加え、エンジン油に関しても省燃費対応品のニーズが高まっています。従来まで主流であった潤滑油添加剤では潤滑油の温度による粘度変化を抑えるはたらきが十分とはいえませんでした。『アクループ』シリーズは温度に関係なく潤滑油の粘度を適正な低いレベルに保つ効果を持つことから省燃費が実現でき、市場のニーズが高まっています。今後も自動車の省燃費化に伴って需要は伸びていくと予想され、この流れに応える製品として『アクループ』シリーズが期待されています。

「もっと低燃費に。」今後もさらに高性能な製品の開発に注力し、社会の「もっと」に応えていきます。



会社概要

概況 (平成25年9月30日現在)

創 立 昭和24年11月1日
資 本 金 13,051,179,427円
従 業 員 数 1,289名(連結 1,925名)

会計監査人 (平成25年9月30日現在)

新日本有限責任監査法人

事業所 (平成25年9月30日現在)

本社[京都市東山区]、本社研究所[京都市東山区]、
東京支社[東京都中央区]、大阪支社[大阪市中央区]
営業所:東京[東京都中央区]・大阪[大阪市中央区]・
北陸[富山市]・中国[広島市南区]・西日本
工場:名古屋[愛知県東海市]・衣浦[愛知県半田市]・

桂研究所[京都市西京区]
名古屋[名古屋市中村区]・
[福岡市中央区]
鹿島[茨城県神栖市]・京都[京都市東山区]

役員 (平成25年9月30日現在)

取締役 会長	家永 昌明	
代表取締役社長 兼執行役員社長	安藤 孝夫	
取締役 兼専務執行役員	矢野 達司	営業第二部門担当兼国際事業推進本部長
取締役 兼専務執行役員	吉野 隆	研究部門担当兼研究業務本部長兼生産技術本部長
取締役 兼専務執行役員	堀井 啓右	生産部門担当兼生産本部長兼生産業務本部長
取締役 兼常務執行役員	大西 亨	企業倫理担当兼間接部門担当
取締役 兼執行役員	鳴瀧 英也	営業第一部門担当兼生活・繊維本部長
取締役	上野 観	
監査役(常勤)	森 良幸	
監査役(常勤)	苅坂 剛	
監査役	清水 順三	
監査役	中野 治雄	
常務執行役員	和多田 修	営業業務本部長兼分社グループ担当兼東京支社長
執行役員	鶴田 博之	石油・環境本部長
執行役員	前田 浩平	事業研究本部長兼本社研究所長
執行役員	吉田 彰二	輸送機本部長
執行役員	小寺 昭芳	事務本部長
執行役員	武田 栄明	SDPグローバル株式会社代表取締役社長
執行役員	木村 昌史	樹脂・色材本部長
執行役員	田中 敬次	開発研究本部長兼桂研究所長
執行役員	太田 篤志	人事本部長
執行役員	下南 裕之	SDPグローバル株式会社取締役副社長

(注) 1.取締役 上野 観氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2.監査役 森 良幸氏、清水 順三氏、中野 治雄氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3.取締役 上野 観氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

三洋化成グループの状況 (平成25年9月30日現在)

複数分野

- サンノブコ株式会社
- サンケミカル株式会社
- サンアプロ株式会社
- サンヨーカセイ(タイランド)リミテッド [タイ・バンコク市]
- サンナム・コーポレーション [米国・ペンシルベニア州]
- サンヨーケミカル・アンド・レジンズLLC [米国・ペンシルベニア州]
- 三洋化成(上海)貿易有限公司 [中国・上海市]
- 三洋化成精細化学品(南通)有限公司 [中国・江蘇省]

生活・健康産業関連分野

- SDPグローバル株式会社
- 三大雅精細化学品(南通)有限公司 [中国・江蘇省]

プラスチック・繊維産業関連分野

- 株式会社サン・ベトロケミカル
- サンライズ・ケミカルLLC [米国・テキサス州]

日現在)

- 国内会社
- 海外会社
- 連結子会社
- 持分法適用会社

石油・輸送機産業関連分野

- サンヨーケミカル・テキサス・インダストリーズLLC [米国・テキサス州]

その他

[物流]

- 三洋運輸株式会社
- 名古屋三洋倉庫株式会社
- 塩浜ケミカル倉庫株式会社

[サービス]

- 株式会社サンリビング

その他の子会社・関連会社(注)

- 聖大諾象国際貿易(上海)有限公司 [中国・上海市]
- 韓国三洋化成株式会社 [韓国・ソウル市]
- サンノブコ(上海)貿易有限公司 [中国・上海市]
- 台湾三洋化成股份有限公司 [台湾・台北市]
- プロドウトス キミコス サンヨーカセイ・ド・ブラジル [ブラジル・サンパウロ市]
- 韓国サンノブコ株式会社 [韓国・ソウル市]
- 大祥化成股份有限公司 [台湾・台北市]

(注) 分野別には区分していません。

株式の概況

株式総数および株主数 (平成25年9月30日現在)

発行可能株式総数 257,956,000株 株主数 7,476名
発行済株式総数 117,673,760株

大株主 (平成25年9月30日現在)

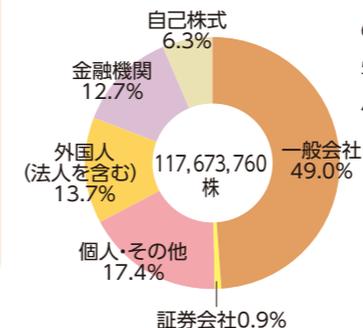
株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
豊田通商株式会社	21,431	19.4
東レ株式会社	19,133	17.3
株式会社日本触媒	5,529	5.0
JXホールディングス株式会社	5,306	4.8
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクライアント	4,068	3.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,879	2.6
三洋化成従業員持株会	2,746	2.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,010	1.8
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	1,776	1.6
ザバンク オブ ニューヨーク・ジャスディックトリーティー アカウント	1,377	1.2

(注) 1.上記のほかに、自己株式7,388千株があります。
2.持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除して算出しております。

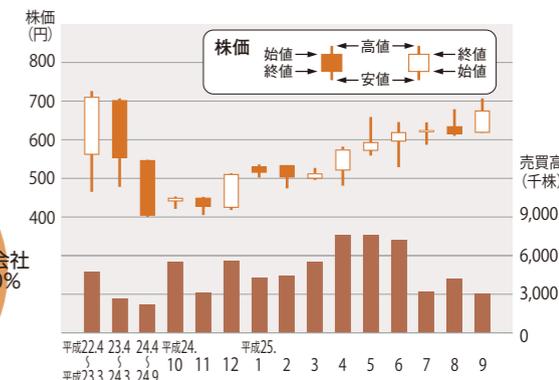
株主構成

(平成25年9月30日現在)

所有者別 持株数比率



株価・売買高の推移



(注) 1.株価・売買高は東京証券取引所によるもの。
2.平成22年4月～平成24年9月の売買高は月平均。

株主メモ

事業年度/毎年4月1日から翌年3月31日まで 期末配当基準日/3月31日
定時株主総会/毎年6月 中間配当基準日/9月30日

株主名簿管理人/三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(電話照会先 郵便物送付先)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。



公 告 掲 載 / 当社ホームページ <http://www.sanyo-chemical.co.jp/>
上場証券取引所 / 東京証券取引所市場第一部 (コード番号 4471)

住所変更、配当金の受取方法の指定、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様が口座を開設されている証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金計算書について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましては、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

三洋化成工業株式会社

本 社 / 〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1
TEL:075-541-0255(総務ダイヤルイン)
東京支社・東京営業所 / 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-6 第10中央ビル
TEL:03-5200-3400(総務ダイヤルイン)
大阪支社・大阪営業所 / 〒541-0053 大阪市中央区本町1-8-12 日本生命堺筋本町ビル10階
TEL:06-6267-3410(代表)
ホームページアドレス <http://www.sanyo-chemical.co.jp/>



レスボンシブルケア

当社は環境と安全の確保を経営の優先的重要課題にしています。



当社は、社団法人 京都モデルフォレスト協会の森づくり活動の趣旨に賛同し、京都府和東町湯船地区の森林において、森林利用保全活動(「三洋化成の森」づくり活動)を行っています。